



完全住設計の家 田畑建設の家

お客様の希望や夢を形にする完全自由設計、田畑建設は、長く住める家にするには、住む人と一緒に考えて作ることが大事だと考えます。

人それぞれのライフスタイルに合わせた間取り、空間。

お客様の夢や希望のお応えできるように、一緒になって取り組んでまいります。

世界に一つだけの「自分の家」を作ってみませんか！！

～安心住宅～



～地盤改良～



家が丈夫でも地盤が弱くは何にもなりません。

田畑建設では、基礎工事前に地質調査を行い、軟弱地盤の場合には地盤改良を行います。

～基礎～



田畑建設では、ベタ基礎をお勧めしております。
ベタ基礎は、家の荷重を分散するので耐震性に優れ、外周しか土に接していないのでシロアリの被害も予防(軽減)してくれます。
基礎の鉄筋は@225で施工し、立ち上がりの巾は135mmを標準としています。

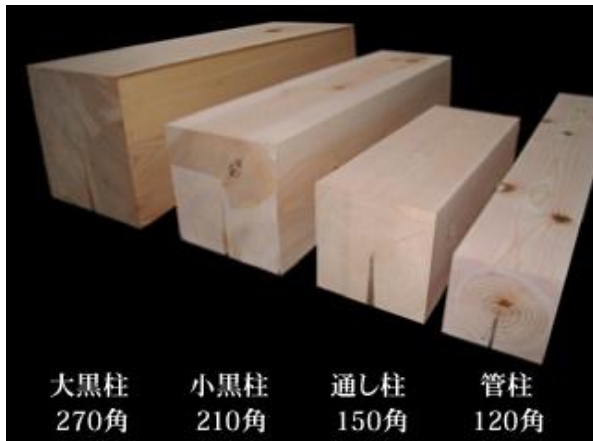
基礎の換気口は、基礎パッキン工法を使用し、なお且つφ 150の換気口を設置し、十分な換気を心がけています。
通常の換気ではクラックが入りやすいため、強度低下の原因になることがあります。
さらにパッキン工法だけですと、外壁施行後は外壁がパッキン部分をかかす為に、換気が十分なのか判断がしにくいいため、強度低下が少なく、換気もしやすい丸型の換気口を設置しています。

～土台～



土台は桧を使用しています。桧は耐水性、耐腐朽性に優れており、赤身と呼ばれる木の中心部分は特に腐食に強いことから、田畑建設では赤身の多い芯材を使用します。

～柱～



柱は桧の4寸角(120×120)以上。通し柱は5寸角(150×150)以上
大黒柱になると7寸～1尺(210～300)です。家を支える大事な柱なのでしっかりしたものを使用します。

～梁(はり)～



梁は松の芯付き材で巾5寸(150)以上のものを使います。
松はねばりが強いので横架材に適しており、芯付き材を使用しますので強度・耐久性に優れ、さらにねばり強い材です。
木の中心を採るので、1本の木から1本しか採れない貴重な材料です。

小屋組には地棟を通し丸太を掛ける昔ながらの工法を貫いており、丸太は末口で直径300mmの松の大木を使用し、棟上げ時に一番盛り上げる場面です。

～野地板～

屋根下地の板の事で、一般的には合板が使われます。
屋根裏は一般的に湿気がたまりやすい場所です。合板で施工すると湿気により接着剤が剥がれたり、腐ったりする恐れがあります。
田畑建設では、桧のムク材を使用します。ムク材は調湿作用があるので、湿気吸い屋根裏の湿度を調整して木材を長持ちさせます。

～土壁～

土壁は

- ・壁内の結露がしにくい
- ・夏はひんやり涼しい
- ・音が響きにくい

など、調湿性、蓄熱性、遮音性に優れています。

日本の高温多湿の気候に合った工法です。

最近では見かけなくなってきましたが、田畑建設では土壁工法で造り続けていきます。

